

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	1
基本施策	1	農業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	1	土地基盤の充実		

1 施策の概要

基本方針	関係機関と連携し、かんがいや、草地更新など土地利用の基盤整備を円滑に推進するとともに、土地基盤の適切に維持管理するほか、担い手への農地集積を誘導する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	豊富な土地基盤を背景に規模拡大を進めてきており、草地更新など土地利用の基盤整備を進めてきている。	開畑、離農跡地の取得により経営規模の拡大を図りながら、大規模酪農地帯と発展してきたが、地区内の農地は小区画で分散が著しく、低利用地や耕作放棄地の発生に繋がっている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	計画的な土地基盤の整備を図り、良質な飼料の確保や、二次的効果が期待できる畑作振興を図ることが必要である。	農家の高齢化・担い手不足から耕作放棄地の増加が懸念されることから、改正農地法等の適正な運用を通じ担い手の育成・確保や耕作放棄地の未然防止などに努め、農地の利用集積を図ることが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						43億円
	実績値	37億円	36億円	38億円	37億円	38億円	
指標2	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						42,848 t
	実績値	36,354 t	37,488 t	37,568 t	37,103t	36,628t	
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	道営かんがい排水事業（国営附帯）雄武中央地区	農務係	60,130	A	継続／現状維持	A
②	枝幸南部地区国営総合農地開発事業償還負担金	農務係	4,843	B	継続／現状維持	B
③	営農用水施設維持管理事業	農務係	6,589	A	継続／現状維持	A
④	基幹水利施設管理事業	農務係	22,733	A	継続／現状維持	A
⑤	地域農業水利施設ストックマネジメント事業	農務係	30,450	A	終了	A
⑥	道営畑地帯総合整備事業	農務係	3,522	A	継続／現状維持	A
⑦	団体営かんがい排水事業	農務係	1,607	A	継続／現状維持	A
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	農業の振興上、土地基盤整備等においては、農業の生産額を上げるための根幹をなしていることから必要である。
② 有 効 性	A	各種施策により計画的に基盤整備が図られ、生産性の向上につながっていることから有効と判断する。
③ 効 率 性	A	土地基盤整備事業等の各種施策については、国・道と町の負担割合が定められており、より事業の効率化を図りながら、事業費の削減に努めている。
④ 公 平 性	A	農業振興上の施策ではあるが、地域の活性化を図る上で、町民の理解が得られているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	土地基盤整備の各種施策の実施に当たっては、関係機関や受益者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
農業は町の基幹産業であり、特に土地の基盤整備は今後とも重要な施策として必要不可欠である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
今後とも一層の土地基盤整備の充実が、地域の生産額向上につながるため、今後においても、継続していく事が必要不可欠である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	2
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	担い手（人・組織）の強化		

1 施策の概要

基本方針	農業後継者を育成・確保し、作業効率化により営農を強化するため、新規就農支援、酪農ヘルパーの強化、預託飼養の推進、コントラクター組織の育成、TMRセンターの設置、農業生産法人の育成を働きかける。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	農業後継者対策や、コントラクター組織による粗飼料の確保に努め、経営の効率化を図っている。	農家戸数の減少や高齢化が進行する中、本町農業の安定的な発展や地域社会の活性化を図るために、農業経営の体質強化と安定化に向けた担い手への各種支援を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	経営の効率化を図るためのTMRセンターの設置や、農業生産法人の設立増に至っていない。	後継者のもとより他分野からの新規参入者の受け入れを図るなど、意欲と能力のある多様な人材を育成・確保し、効率のかつ安定的な農業経営体である認定農業者や農業生産法人等の中核的な担い手を育成する必要がある。また、TMRセンターの設置についても引き続き検討課題である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農家戸数（生乳出荷）					
	定義等	搾乳農家戸数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						76戸
	実績値	76戸	75戸	73戸	71戸	66戸	
指標2	指標名	後継者対策・酪農体験の実習生年間受入人数					
	定義等	年間の酪農体験受入人数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						2人
	実績値	1人	1人	3人	2人	0人	
指標3	指標名	新規就農戸数					
	定義等	新規就農戸数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						2戸
	実績値	0戸	0戸	0戸	0戸	0戸	
指標4	指標名	農業生産法人					
	定義等	農業生産法人数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						5法人
	実績値	3法人	3法人	3法人	3法人	4法人	
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	利子補給補助事業	農務係	3,774	A	継続／現状維持	A
②	酪農ヘルパー制度強化推進事業	農務係	2,000	A	継続／現状維持	A
③	農業経営改善促進事業	農務係		A	継続／現状維持	A
④	新規就農者支援事業	農務係		C	継続／内容の見直し・変更	B
⑤	雄武町農業後継者対策事業	振興係	250	A	継続／現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	担い手育成強化のための施策は、町の農業の発展を図る上で必要である。
② 有 効 性	B	各種施策により作業の効率化や農家負担の軽減が図られており、生産性の高い経営基盤確立を進めているが、後継者不足の解決には至っていない。
③ 効 率 性	A	各種施策は、道と町の負担割合が定められているものや受益者負担が決められているものがあり、実施にあたっては効率的に進められている。
④ 公 平 性	A	受益者は農家に限られるが、各施策実施における農業経営基盤の安定は、農業の振興上必要なものであり、理解が得られるものと思われる。
⑤ 町民意見の反映	A	担い手育成のための施策は関係機関との協議により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
農業経営における資金的な負担軽減や経営環境の改善が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
農家に対する負担軽減対策や担い手対策は、必要不可欠であり、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	3
基本施策	1	農業の振興	評価 責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	生産技術の向上		

1 施策の概要

基本方針	関係機関と連携し、酪農経営について、適切な飼料給与、飼養管理技術の改善、生産技術の向上、集約放牧、搾乳・ほ乳ロボット、有機酪農等多様な生産技術を研究する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	生産技術の向上を図る上で一部農家において搾乳ロボットの導入を図っており、関係機関と連携をしながら、専門的知識の習得を行っている。	牧草やデントコーンの生育状況調査や突発的な気象災害等に対する被害調査を関係機関と連携しながら実施し、また、搾乳やほ乳の自動化等営農技術対策の樹立や営農指導の徹底を図っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	生産技術の向上を図る上で、より一層の飼養管理技術の改善と情報の共有を図ることが求められている。	地域の課題に対する研究や開発された新技術の生産現場への普及を速やかに図る体制を整備する必要がある。また、優良雌牛判別生産技術等具体策により、効率的な生乳生産に努める必要もある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						43億円
	実績値	37億円	36億円	38億円	37億円	38億円	
指標2	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						42848 t
	実績値	36,354 t	37,488 t	37,568 t	37,103t	36,628t	
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	畜産指導者育成事業	農務係		A	継続／現状維持	A
②	農業生産拡大緊急対策事業	農務係	4,954	C	継続／拡充	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	専門知識の習得や情報の共有は、農業施策を実施する上で重要なものである。
② 有 効 性	A	本施策の実施により、現状の課題に対する対応策の検討がなされており、生産技術の向上が図られている。
③ 効 率 性	A	本施策は効率的に実施されており、事業費等の削減の余地はない。
④ 公 平 性	A	本施策により検討された課題等における対応策は農家にすべて還元されるものであり、公平なものであると判断できる。
⑤ 町民意見の反映	A	関係機関との協議により、生産向上等に係る施策に反映されている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各関係機関において、現状の課題に対する対応策の共有がなされており、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
生産技術の向上は、地域農業経営の安定化を図る上でも必要不可欠であり、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	4
基本施策	1	農業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	4	安全・安心な農業の振興		

1 施策の概要

基本方針	家畜ふん尿処理施設の整備、家畜排せつ物の有効利用を働きかけるほか、農業者・農業団体と連携し、農薬・化学肥料の投与減によるポジティブリストへの対応、使用済み農業用資材回収を徹底するとともに、漁業・水産加工業と連携した環境保全対策を推進する。更に、農場HACCP、農畜産物の生産・加工・流通のリスク管理を徹底する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	持続可能な農業を展開するために、環境への十分な配慮をしながら、家畜排せつ物の有効利用を図っている。	酪農業を安定的に発展させるため、「土-草-牛」の循環を基本とした資源循環型酪農・畜産の確立を推進している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	家畜ふん尿等の有効活用と漁業・水産加工業との連携した環境保全対策が求められている。	家畜伝染病の発生に備えるため、危機管理体制の強化と効率的な防疫体制が求められている。また、搾乳を行うパーラー施設からの排水量が増加し、新たな汚水処理が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	農業生産額					
	定義等	全農家の農業生産額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						43 億円
指標2	実績値	37 億円	36 億円	38 億円	37億円	38億円	
	指標名	生乳生産量					
	定義等	全農家の生乳生産量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						42,848 t
	実績値	35,853t	37,488 t	37,568 t	37,103t	36,628t	
	指標名						
	定義等						
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標7	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】中山間地域直接支払制度	農務係	94,105	A	継続／現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	本施策により環境対策が図られることと併せ、経営コストの削減が図られることから妥当と判断する。
② 有 効 性	A	本施策により、環境対策が図られることや循環型農業の確立がなされることから有効である。
③ 効 率 性	A	本施策は効率的に実施されており、事業費等の削減の余地はない。
④ 公 平 性	A	本施策により環境保全対策が向上し、町民の理解が得られることから公平と判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	関係団体や受益農家との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策の実施により、循環型農業の展開が なされており、環境保全が保たれている。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
安全・安心な農業の振興は、今後もより強く 求められることから、対策が必要と判断 する。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	5
基本施策	1	農業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	5	農業による地域の活性化		

1 施策の概要

基本方針	加工品の企画・開発を進め、直売・ネット販売の強化、学校給食、イベントでの地産地消の拡大等により、ブランド力を底上げし、快適な農業環境づくりを進め、グリーン・ツーリズムの振興をめざし、農業体験の受け皿づくりを進める。		
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）
	生乳を活用した乳製品の開発や、ダッタンそばによる、そば打ち体験を通じながら地産地消の底上げを図っている。		畑作転換への試験的な取組みとして、気候風土に適した作物（ダッタンソバやカラフト豆）の試験栽培を実施し、加工品の企画・開発を進めている。また、そば打ち講習会を開催しダッタンソバの普及を図っている。
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）
	地域の活性化に向けた、新たな付加価値を高めた製品の開発や畑作物の生産等を通じた農業の6次産業化の推進が必要である。		農業を核とした個性豊かな地域活性化に向け、農地や農業用水等の地域資源の適切な保全活動に対する支援を行って農業に対する理解を深めるとともに、これら資源を活用した農村活性化、さらには6次産業化等の取組を促進する必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						目標値（H24）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	中山間地域等直接支払制度	農務係	94,105	A	継続／現状維持	A
②	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業	農務係	1,134	A	継続／拡充	A
③	畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型事業）	農務係	136,008	A	継続／現状維持	A
④	雄武町農地基本台帳システム更新事業	振興係	3,675	A	終了	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	ブランド力の底上げや新たな特産品開発によって地域の活性化が図られることから妥当と判断する。
② 有 効 性	A	本施策の実施により地域の活性化が図られることから、有効であると判断する。
③ 効 率 性	A	本施策は効率的に実施されており、事業費等削減の余地はない。
④ 公 平 性	A	ブランド力の底上げや新たな特産品の開発は、新たな雇用創出等にもつながることから、町民の理解が得られるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
加工品の企画・開発は地域の活性化につながるものであり、今後においても必要不可欠である。	同左	

今後の方向性



継続／拡充	継続／拡充	
ブランド力の底上げや新たな特産品開発は、地域の活性化につながるものであることから、今後、一層の拡充が必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	6
基本施策	2	林業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	1	生産体制の強化		

1 施策の概要

基本方針	福利厚生面への支援等による担い手の確保、機械化等による一層の作業合理化、林道・作業道の整備を進め、造林、下刈り、間伐等計画的な保育、原木・チップ等の生産・加工を働きかける。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	国内の林業が低迷する中、本町においても、素材生産・出荷は僅かで、将来的な活用を目的とした森林施策が中心となっている。	国内の林業が低迷する中、本町においても、素材生産・出荷は僅かであったが、平成23年度に森林認証を取得するなど、地域材の利用・促進に向けた取り組みを行っており、将来的な素材生産・出荷の拡大に向けて取り組んでいる。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	町内の森林の社会的な価値を高め、木材・林産物の生産につなげていく必要がある。また、担い手の減少や高齢化も課題となっている。	本町の人工林資源は利用段階を迎えているが、木材を搬出するための、路網整備が遅れており、早急な整備が必要となっている。また、担い手の減少や高齢化も課題となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・民有林の人工造林面積					
	定義等	町有林・民有林の人工造林面積					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						60ha
指標2	実績値	57.0ha(H18)	64.2ha	63.1ha	81.0ha	50.1ha	
	指標名	町有林・民有林の除間伐面積					
	定義等	町有林・民有林の除間伐面積					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						300ha
	実績値	262.9ha	388.8ha	516ha	247.3ha	225.5ha	
	指標名	森林作業員数					
	定義等	森林作業員数					
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						29人
	実績値	26人	28人	25人	23人	26人	
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標8	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	森林整備地域活動支援交付金	林務係	14,800	A	継続／現状維持	A
②	町有林除間伐事業	林務係	17,829	A	継続／現状維持	A
③	未来につなぐ森づくり推進事業	林務係	7,871	B	継続／現状維持	A
④	町有林造林事業	林務係	3,785	A	継続／現状維持	A
⑤	森林整備推進事業	林務係	3,189	A	継続／現状維持	A
⑥	町有林下刈事業	林務係	2,604	A	継続／現状維持	A
⑦	森づくり循環促進事業	林務係	566	B	継続／現状維持	A
⑧	森林整備担い手対策推進事業	林務係	499	A	継続／現状維持	A
⑨	林業担い手対策事業	林務係	164	A	継続／現状維持	A
⑩	野ねずみ駆除事業	林務係	110	A	継続／現状維持	A
⑪	森林認証取得管理事業	林務係	547	A	継続／現状維持	A
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	町内における森林の社会的な価値を高め、木材・林産物の生産につなげていく事は妥当と判断する。
② 有 効 性	A	各種施策により、生産体制の強化を図る事は、森林の社会的価値を高める事から有効と判断する
③ 効 率 性	A	生産体制の強化の各種施策は、予算の有効活用及び事業費削減、業務の効率化を図っている。
④ 公 平 性	A	補助事業は、国や道の実施要領に定められた負担区分に則って負担しているほか、単独事業も対象者に応分の負担を求めている、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	生産体制の強化に係る各種施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各種施策により、生産体制の強化が図られており、今後においても必要不可欠な施策がある。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
社会的な価値を高める上で、各種施策が必要不可欠であり、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	7
基本施策	2	林業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	多面的機能の発揮		

1 施策の概要

基本方針	町内森林の多面的機能を発揮させるため、魚つきの森の育成等による上下流の生態系の確保、水源涵養・災害防止につながる治山事業の推進、森林体験の拡大、特用林産物・バイオマスの研究等を進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	地球規模での環境保全に対する意識の高揚から乱伐を抑制し、山林地域における水源の涵養や環境の保全を行っている。	森林を適切に維持管理することによって、土砂の流出防止や水源の涵養など森林の多面的機能が高度に発揮されるよう、北の魚つきの森等の整備を進め、環境保全を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	森林の多面的機能を発揮させるため、魚つき林の育成などによる上下流の生態系循環の確保や水源涵養・災害防止など治山事業の推進が求められている。	恒常化しつつあるクマ、シカ等野生動物による被害等により、森林の多面的機能の発揮に支障をきたしており、これらを抑制する効果的な対策が必要となっている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町有林・民有林の人工造林面積					
	定義等	町有林・民有林の人工造林面積					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						60ha
指標2	実績値	57.0ha(H18)	64.2ha	63.1ha	81.0ha	50.1ha	
	指標名	町有林・民有林の除間伐面積					
	定義等	町有林・民有林の除間伐面積					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						300ha
	実績値	262.9ha	388.8ha	516ha	247.3ha	225.5ha	
	指標名						
	定義等						
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標8	目標値						
	実績値						
	指標名						
	定義等						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	生活環境保全林維持管理事業	林務係	1,326	A	継続／現状維持	A
②	林道維持管理事業	林務係	11,543	A	継続／現状維持	A
③	みどりと親しむ町民のつどい	林務係	724	A	継続／現状維持	A
④	森林情報緊急整備事業	林務係	1,799	A	終了	A
⑤	北の魚つきの森環境整備事業	林務係	29,571	A	継続／現状維持	A
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	豊富な森林資源を有する本町の山林を活用することが、森林の多面的機能の発揮につながる
② 有 効 性	A	各種施策により、水源の涵養や環境保全が図られ多面的機能の発揮が図られているので有効と判断する。
③ 効 率 性	A	予算の有効活用及び事業費削減、業務の効率化を図っている。
④ 公 平 性	A	森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受している。
⑤ 町民意見の反映	A	多面的機能の発揮に係る各種施策は関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各種施策により、多面的機能の発揮が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
豊富な森林資源を有する本町の山林を活用することが、森林の多面的機能の発揮につながり、今後においても一層の充実が必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	8
基本施策	3	水産業の振興	評価 責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	1	水産資源の保護・増大		

1 施策の概要

基本方針	漁協等と連携し、ホタテ稚貝の中間育成施設、ホタテ漁場の沖出しを実施し、漁獲の安定につなげるほか、サケ・マスの回帰率向上の取組、囲い礁整備等によるウニの増殖、ハタハタの放流等を進め、カニ類等の資源管理を徹底し、漁場の環境保全対策を進める。			
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）	
	つくり育てる漁業の促進に向け、ホタテ中間育成施設の再編整備によるホタテ漁場の沖出しや、ホタテ漁業の自給自足体制の確立を図っている。また、サケ・マスの孵化放流事業やウニ増殖場の整備も計画的に行っている。併せて、モガニ・ナマコ・うに等の資源管理にも努めている。		ほたて漁場・中間育成施設の再編整備が完了し、漁獲の安定・増産が期待されている。また、サケ・マスの孵化放流事業やウニ増殖場の整備による資源の増大、モガニ、ナマコ、ウニ等の適正な資源管理についての取組も継続して実施している。	
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）	
	次世代においても安定した生産体制の確立を図るため、資源管理のあり方や、環境変化に対応した、試験研究機関との連携をしながら、更なる技術開発が求められている。		次世代においても安定した生産体制の確立を図るため、試験研究機関とも連携しながら、増養殖技術の向上や漁場環境の保全対策及び環境変化に対応した資源管理を推進することが必要である。	

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額					
	定義等	年間の漁獲金額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						45億円
	実績値	39.4億円	39.5億円	39.2億円	48.3億円	56.9億円	
指標2	指標名	ホタテ生産量					
	定義等	年間のホタテ水揚量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						15,000t
	実績値	7,647t	9,653t	14,574t	15,751t	13,258t	
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量					
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						3,800t
	実績値	2,416t	1,783t	2,878t	3,392t	2,957t	
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策へ の貢献度
①	ほたて漁場中間育成施設整備事業	水産係	45,712	A	終了	A
②	新規ほたて貝増産事業	水産係	9,500	A	終了	A
③	ほたて漁場造成事業	水産係	3,300	A	継続／内容の見直し・変更	A
④	雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁場整備）	水産係	8,348	A	継続／現状維持	A
⑤	ほたて漁場貝殻散布事業	水産係	2,000	A	継続／現状維持	A
⑥	ほたて新規事業新規漁場整備事業	水産係	15,000	A	終了	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	つくり育てる漁業を推進し水産資源の保護・増大を図ることは、安定した漁業生産につながるものであり、水産業の振興のためには必用不可欠な施策である。
② 有 効 性	A	各単位施策事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効 率 性	A	大学・試験研究機関など関係機関との連携により効率的な推進を図っている。
④ 公 平 性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	水産資源の保護・増大に係る各種施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
つくり育てる漁業を推進し水産資源の保護・増大を図ることは、安定した漁業生産につながるものであり、基本施策における指標実績値の上昇も顕著に表れている。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
「つくり育てる漁業」の推進は、現在の水産業振興の基軸となるものであり、地域経済全体への影響力も高く、水産資源の保護・増大施策の継続実施が必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	9
基本施策	3	水産業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	経営基盤の強化		

1 施策の概要

基本方針	漁協等と連携し、制度融資等経営体の経営改善につながる取り組みを進め、安全で安定した操業につながる漁港整備を国・道に働きかけるほか、海難事故防止対策を充実し、遊漁との共存ルールを徹底する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に応じた整備を行っている。	水産業全体の経営基盤強化を図るため、各種支援対策を実施しているほか、各漁港におけるそれぞれの機能性に応じた整備を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	水産業全体の経営基盤強化を図るためには、漁業においては、より一層の共同化を図り生産性の向上を図る必要がある。一方、水産加工業においては労働力の確保が課題である。	生産・流通の拠点となる漁港整備の進捗が鈍化しており、整備の促進が必要である。また、水産加工業においては、水産廃棄物処理に対する取り組みを強化するなど、処理コストの低減・環境保全対策の強化による経営基盤の強化を図る必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁港整備）	水産係	26,652	A	継続／現状維持	A
②	漁業近代化資金利子補給事業	水産係	1,700	A	継続／現状維持	A
③	漁業施設低気圧被害借入資金利子補給事業	水産係	109	A	継続／現状維持	A
④	救難所整備事業	水産係	100	A	継続／現状維持	A
⑤	雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁港整備・幌内）	水産係	0	A	継続／拡充	A
⑥	雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁港整備・沢木）	水産係	0	A	継続／現状維持	A
⑦	水産物供給基盤機能保全事業	水産係	539	A	継続／現状維持	A
⑧	漁業経営健全化促進資金利子補給事業	水産係	287	A	継続／現状維持	A
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	水産業は町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、地域経済の地域経済の活性化を推進する上で、経営基盤の強化を図ることが必要である。
② 有 効 性	A	各単位施策事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効 率 性	A	国・道などの関係機関に対し、漁協や関係者と連携しながら事業優先度に応じたインフラ整備の協議を進めており、効率的な事業推進を図っている。
④ 公 平 性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	経営基盤の強化に係る各種施策は、関係機関や漁業者との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水産業は町の基幹産業であり、関連産業への波及効果も大きく、その根幹をなす経営基盤の強化を図ることは、地域経済全体の活性化につながるものである。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の振興を図るため、継続した経営基盤強化施策の実施が必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	10
基本施策	3	水産業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	消費・流通対策の拡大		

1 施策の概要

基本方針	地域が一体となって、水揚げから加工・流通に至る衛生管理や鮮度・品質の保持を進め、雄武ブランドの付加価値を高めるほか、新しい加工品の開発や効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげます。更に、漁業・水産加工の公開、体験等マリン・ツーリズムを展開する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取り組みが進み、メジカ、モガニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場での高い評価につながっているほか、販売についても漁業直販店「海鮮丸」、水産加工協産直店「海宝」が開設され、道外での展示即売やネット販売などの取り組みが進められているほかサケ（雄宝・活ジメ）の付加価値向上を図っている。	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取り組みが進み、秋サケ（メジカ、雄宝）、モガニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場で高く評価され魚価・製品の価格向上につながっている。また、販売についても地元直販店やネット販売を展開するほか、道内外での展示即売・商談会など市場拡大に取り組んでいる。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	雄武ブランドの付加価値を高めること及び、新しい加工品の開発や効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげる必要がある。	雄武ブランドの更なる付加価値の向上のため、海外輸出も視野に入れた衛生管理体制の強化、6次産業化の推進を図ることが必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額					
	定義等	年間の漁獲金額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						45億円
	実績値	39.4億円	39.5億円	39.2億円	48.3億円	56.9億円	
指標2	指標名	ホタテ生産量					
	定義等	年間のホタテ水揚量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						15,000t
	実績値	7,647t	9,661t	14,580t	15,751t	13,258t	
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量					
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値			2,540t			3,800t
	実績値	2,416t	1,775t	2,865t	3,390t	2,949t	
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策へ の貢献度
①	【再掲】雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁港整備）	水産係	26,652	A	継続／現状維持	A
②	【再掲】水産物供給基盤機能保全事業	水産係	539	A	継続／現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進するうえで、消費・流通対策の拡大を図る必要がある。
② 有 効 性	A	各単位施策事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効 率 性	A	マリナビジョンの推進など農林水及び商工関係者が連携し、地域が一体となった取組を進めており、効率的に進められている。
④ 公 平 性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	消費・流通対策の拡大に係る各種施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水産業の振興を図るうえで、消費・流通対策は生命線の役割を担っており、雄武ブランドの推進による効果も大きいことから、地域経済全体の活性化につながるものである。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の振興を図るため、消費・流通対策の拡大に向けた施策の継続が必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	11
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	1	事業所の体力づくりへの支援		

1 施策の概要

基本方針	商工会等と連携し、町内企業の技術開発、情報化・近代化、環境対策等への指導や経済的支援を進める。		
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）
	商業においては、大型小売店への消費流出が一段と進んでいる。製造業においては、燃料価格の高騰など経営環境は厳しいことから、経営の安定対策として融資制度による支援を行っている。		商業においては、大型小売店への消費流出や域内人口の減が一段と進んでいる。製造業においては、燃料価格の高騰など経営環境は厳しいことから、経営の安定対策として融資制度による支援を行っている。また、水産加工品の海外需要拡大など明るい材料もみられる。
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）
	商業においては空き店舗対策や、製造業においては、より一層の付加価値を高めた雄武ブランドの確立や、建設業においては、異業種への進出を加速させる必要がある。		商業においては空き店舗対策や、製造業においては、より一層の付加価値を高めた雄武ブランドの確立、建設業においては、異業種への進出を加速させる必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	製造品出荷額（食料品＋その他）					
	定義等	工業統計による製造品出荷額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						180億円
	実績値	152億円	151億円	129億円	128億円	（未公表）	
指標2	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策へ の貢献度
①	商工業振興事業	商工観光係	10,000	A	継続／現状維持	A
②	中小企業等振興事業	商工観光係	211,841	A	継続／拡充	A
③	商業活性化推進事業	商工観光係	1,200	A	継続／拡充	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	中小企業の経営安定を図ることは必須であり、商工業の経営健全化を推進する上で妥当と判断する。
② 有 効 性	A	商工業者への継続的な支援をすることが有効であると判断する。
③ 効 率 性	A	細部にわたって精査をしており、予算の有効的な活用を図っている。
④ 公 平 性	A	本施策は商工業の振興に、有益的に活用されている。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場を設けていないが、関係団体との協議の中で反映されていると判断する。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
現状の経営環境から判断し、継続的な支援をすることによって、一定程度の経営安定化が保たれている。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
景気動向にもよるが、事業所の経営環境は今後においても厳しい事が予想されることから、継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	12
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	多様なビジネス展開の促進		

1 施策の概要

基本方針	商工会等と連携し、研修会の充実、異業種交流の拡大等を進め、起業家支援や新しいビジネスモデルの発見等多様なビジネス展開につなげ、内発的な地域産業を育成する。		
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）
	商工会が中心となって研修会や新たな事業展開を進めるため、地域産業の育成に努力している。		商工会が中心となって研修会や新たな事業展開を進めるため、地域産業の育成に努力している。又、だったんそば焼酎が3周年記念として「原酒」の製造を行った。
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）
	研修会や異業種交流の拡大に努めているが、起業家や新たなビジネスモデルの展開につなげていない。		研修会や異業種交流の拡大に努めているが、中々、起業家支援や新たなビジネスモデルの展開につなげていない状況である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	異業種進出企業数					
	定義等	異業種進出企業数の累計					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						5法人
指標2	実績値	2法人	2法人	2法人	2法人	2法人	
	指標名	異業種連携により開発された特産品の累積数					
	定義等	異業種連携により開発された特産品の累積数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						5品目
	実績値	1品目	1品目	1品目	1品目	1品目	
	指標名						
	定義等						
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標7	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】神門プロジェクト事業	商工観光係	2,260	B	継続／現状維持	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	商工会と連携をしながら起業家の支援や、多様なビジネス展開につなげることは妥当と判断する。
② 有 効 性	B	異業種交流の拡大や、多様なビジネスの展開につながっていない。
③ 効 率 性	B	住民ニーズに応じた流通形態の見直しや、新たなビジネスモデルの展開につながっていない。
④ 公 平 性	B	韃靼そば焼酎については、町内外を問わず多くの人々に提供されていることから、公平性が保たれていると判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見も反映しながら、関係団体とも協議をし進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
町外流出防止に向けた新たなビジネス形態のあり方など、社会情勢の動向を見ながら進める必要があると判断している。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
大型店への消費流出を防ぐ上で、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	13
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	住民を支える商店街づくりへの支援		

1 施策の概要

基本方針	住民生活にとって欠くことのできない商店街の活性化のため、連携・協働による支援を進める。		
現状と課題	【現状】（平成21年度末）		【現状】（平成23年度末）
	人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のために商業活性化推進事業の充実を図り地元の購買力高めるため、関係機関と連携しながら進めている。		人口減少と高齢化が進む中で、商店街活性化のため、関係機関と連携しながら進めている。又、平成23年度から商店街での買い物に不便さを強いられている高齢者への御用聞き、宅配事業を商工会が実施している。
	【課題】（平成21年度末）		【課題】（平成23年度末）
	人口減少と高齢化に伴う買い物難民対策や、より一層の地元購買力を高める施策が必要である。		商店街の活性化を図るため、より一層の施策が必要であり、又、移動販売推進事業については、買い物に不便さを強いられている高齢者へ更に利便性を提供する事が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	サービス業就業者数					
	定義等	国勢調査等によるサービス業就業者数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						850人
指標2	実績値	858人(H17)	（未調査）	611人	（未調査）	599人	
	指標名	年間商品販売額					
	定義等	商業統計調査による年間商品販売額					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						140億円
	実績値	121億円	（未調査）	（未調査）	（未調査）	（未公表）	
	指標名						
	定義等						
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標7	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策へ の貢献度
①	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業	商工観光係	500	A	継続／現状維持	A
②	地域交流センター管理・清掃業務委託事業	商工観光係	5,717	A	継続／現状維持	A
③	大通り商店街協同組合運営費補助事業	商工観光係	320	A	継続／現状維持	A
④	移動販売推進事業	商工観光係	650	C	継続／拡充	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	経済の低迷化が長引く中、地元購買力等を高めるための施策は、住民を支える立場として妥当と判断する。
② 有 効 性	A	各施策毎に工夫された活動がなされており、事業効果は有効であると判断する。
③ 効 率 性	A	各事業においては、企画立案・自助努力もしながら実施しており、住民ニーズもとらえた中で施策展開しており、効率性があると判断する。
④ 公 平 性	A	広く町民を対象とした事業展開を行っており、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
商店街の活性化は、地域住民が安心して生活ができる環境であることから、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
住民が安心して生活する上で、商店街の活性化は必要不可欠であり、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	14
基本施策	4	商工業の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	4	勤労者の就労環境の向上		

1 施策の概要

基本方針	就労対策における、就労環境の向上等を関係機関に働きかける。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また広域的な通年雇用対策も行っている。	通年雇用が確保できない季節労働者を対象に冬期雇用対策を行っている。また広域的な通年雇用対策も行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	季節労働者の就労環境においては、一段と厳しい状況であり、通年雇用の促進増に至っていない。	季節労働者の就労環境においては、一段と厳しい状況であり、通年雇用の促進増につながる施策が必要である。また、高齢者や障がい者の雇用、子育て期の就労環境向上等、多様な対策も求められている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	建設業就業者数					
	定義等	国勢調査による建設業就業者数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						300人
	実績値	308人(H17)	（未調査）	267人	（未調査）	249人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	勤労者雇用促進事業	商工観光係	2,094	B	継続／現状維持	B
②	【再掲】町道等除草作業他環境保全事業	土木管理係	5,565	A	継続／現状維持	B
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	通年雇用を促進する上で、本施策は妥当と判断する。
② 有 効 性	B	関係機関との連携を進める事は、雇用環境の促進につながる事から有効と判断する。
③ 効 率 性	A	予算の有効活用及び事業費の削減、業務の効率化を図っている。
④ 公 平 性	A	本施策については、広く周知した中で実施しており、公平性が保たれていると判断している。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係機関と連携しながら進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
本施策は一定の効果は上げているが、社会情勢を見ながら進める必要がある。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
雇用情勢は引き続き厳しいことから、今後においても継続していく必要がある。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	15
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	1	雄武観光の売り込み		税財管理課長 淡路 至尊

1 施策の概要

基本方針	流水とカニ・ホタテ・サケ・乳製品があり、他のオホーツク管内に負けない広大な海岸酪農景観を楽しめることから、北海道で最も北海道らしいまちとして全国に雄武観光を売り込むほか、都市居住者が好奇心や探究心を持つ雄武ならではのエピソードをタイムリーに情報発信する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	道内各イベントを通して関係団体も含め、積極的に特産品をPRしながら売り込みを図り、併せてホームページ等でも情報発信している。	道内各イベントを通して関係団体も含め、積極的に特産品をPRしながら売り込みを図り、併せてホームページ等でも情報発信している。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	様々な形で情報発信しているが、観光客の増につながっていない。今後、人とのつながりが重要となってくる。	様々な形で情報発信しているが、観光客の増加につながっていないため、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどで、情報発信を行い、観光客増加を目指す必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数					
	定義等	雄武町における年間観光入り込み客数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						13万人
	実績値	11.1万人	10.6万人	10.9万人	13.1万人	12.5万人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値（H24）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策へ の貢献度
①	ホテル日の出岬施設整備事業	管財係				
②	道の駅振興調査事業	商工観光係	0	B	継続／現状維持	B
③	産業観光まつり運営助成事業	商工観光係	3,000	A	継続／現状維持	A
④	観光協会運営助成事業	商工観光係	2,300	A	継続／現状維持	A
⑤	神門プロジェクト事業	商工観光係	2,260	B	継続／現状維持	A
⑥	観光PR用印刷物作成事業	商工観光係	500	A	継続／現状維持	A
⑦	【再掲】ふるさと発信CI推進事業	企画調整係	403	A	継続／現状維持	B
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	雄武町の魅力を全国発信する上で、自然環境の豊かさや、特産品のPRを推進する事が妥当と判断する。
② 有 効 性	A	各種施策により、PRが図られているので有効であると判断する。
③ 効 率 性	A	各種施策によって、効率的に広くPRにつながっている。
④ 公 平 性	A	各種施策については、誰もが広く恩恵を受ける事から公平が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体・機関と連携をしながら進めている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各媒体での情報発信に努めているところであり、本町の魅力PRをあらゆる事業を通して行っている。雄武観光の売り込みについて、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性		
継続／現状維持	継続／現状維持	
観光の売り込みについては、魅力化、認知化、観光客ニーズの分析等、引き続き各種施策の継続が必要であり、より一層の情報発信に努める必要がある。	同左	
＊今後の方向性の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	16
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	2	雄武観光の魅力化		財務企画課長 佐々木幸博

1 施策の概要

基本方針	釣りや流水ウォーク、自然鑑賞、農・水産加工等を体験メニュー化し、住民の協力を得ながら、滞在型観光の取り組みと、地域イベントの充実・連携を進める。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報発信をしたり、秋のイベント「うまいもんまつり」を新たに行いながら、雄武の魅力の情報発信を行っている。	日の出岬を中心とした観光施設の中で情報発信をしたり、秋のイベント「うまいもんまつり」を行いながら、雄武の魅力の情報発信を行っている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	本物の食の魅力を堪能できる施設や滞在型観光の取り組み課題である。	本物の食の魅力を提供をできる仕組みや滞在型観光の取り組み、さらには既存資源や第1次産業を活かした観光の推進が課題であり、今後、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどを企画し観光客増加を目指す必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	観光の満足度					
	定義等	まちづくりアンケートにおける観光の満足度					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						20%
指標2	実績値	13%（H18）	（未調査）	（未調査）	（未調査）	17.40%	
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標3	目標値						
	実績値						
	指標名						
	定義等						
指標4	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標5	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
指標7	実績値						
	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
指標8	目標値						
	実績値						
	指標名						
	定義等						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	癒しのエリア振興調査事業	企画調整係	0	D	休止	E
②	日の出岬末開発区域整備調査事業	企画調整係	0	D	休止	E
③	観光施設維持管理事業	商工観光係	7,502	A	継続／現状維持	A
④	メモリアル広場等維持管理事業	商工観光係	2,237	A	継続／現状維持	A
⑤	サンライズ王国運営助成事業	商工観光係	1,500	B	継続／現状維持	B
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	各種施策により、魅力あふれる事業展開を推進することが妥当と判断する。
② 有 効 性	C	魅力的な観光拠点のあり方や、より有効なり活用方法を調査・研究する、具体的な進展とはなっていない。
③ 効 率 性	C	既存の観光資源を活かした中で、今後魅力的な観光拠点のあり方を調査・研究する具体的な進展とはなっていない。
④ 公 平 性	A	地域観光振興に有益的に活用されていることから、公平性が保たれていると判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係団体との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
各種施策においては、住民ニーズを把握し魅力ある事業展開を図っているところであり、関係機関との連携をしながら、今後においても必要不可欠な施策である。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
各関係機関との連携を強化し住民を巻き込んだ事業展開を図り、併せて観光スポットのルート化を確立するなど、今後においても継続していく必要がある。又、旅行会社と連携を図り、観光客を呼び込むツアーなどを企画し観光客増加を目指す必要がある。	同左	
＊今後の方向性の区分 ○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	17
基本施策	5	観光の振興	評価責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	おもてなし力の強化		

1 施策の概要

基本方針	心づかい等の接客マナーの向上、外国人観光客の対応方法の習熟、障がい者を迎える体制づくり等、おもてなしを強化するほか、農家・漁家民宿の開設を積極的に支援する。	
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）
	本町に来町する観光客に安心して滞在してもらえる様、ホテル日の出岬を中心に満足していただくため、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応をしている。	本町に来町する観光客に安心して滞在してもらえる様、ホテル日の出岬を中心に満足していただくため、観光施設の整備やイベントを通じながら、おもてなしの対応をしている。
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）
	恵まれた自然環境をベースにおもてなし力の強化や食を通じた農家・漁家民宿の開設には至っていない。	恵まれた自然環境をベースにおもてなし力の強化や食を通じた農家・漁家民宿の開設には至っていない。また、町外向けの積極的な観光情報提供も「おもてなし力」の強化につながることから、その充実強化に努めることも重要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	年間観光入り込み客数					
	定義等	町内観光施設への年間入り込み客の延人数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						13万人
	実績値	11.1万人	10.6万人	10.9万人	13.1万人	12.5万人	
指標2	指標名	観光イベント参加者数					
	定義等	町内で開催される観光イベントの参加人数					
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						2.6万人
	実績値	2.6万人(H18)	3.5万人	3.5万人	3.5万人	3.5万人	
指標3	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年 度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事 務 事 業 名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	オホーツクサイクリング事業	商工観光係	2,831	A	継続／現状維持	A
②	【再掲】地域間交流推進事業	企画調整係	942	A	継続／現状維持	A
③	【再掲】武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,356	A	継続／現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理 由 、 説 明 等
① 妥 当 性	A	観光施設における接客マナー等の向上に留意しており、一大イベントであるオホーツクサイクリング等においても参加者に不愉快な思いをさせないよう町民をはじめ職員等にも意識が定着しており、妥当と判断する。
② 有 効 性	B	おもてなし力の強化を図ることは、本町の魅力向上にもつながり、リピーターの確保等の効果も期待できるが、多様な客層の受け入れ態勢等には課題もある。
③ 効 率 性	A	おもてなし力の強化を図るのに、現時点では多額の経費を必要とせず、効率的であると判断する。
④ 公 平 性	A	おもてなし力の強化により観光振興を図ることは、本町の活性化等に寄与するものであり、地域経済への波及効果等も期待できることから、町民に公平に寄与されるものである。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、イベント開催等においては、「おもてなし」を意識した議論が行われており、一定の反映が行われている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
接客マナーの向上等のソフト面は一定程度定着されているが、多様な客層に対する体制づくりに課題があるほか、農家・漁家民宿等の開設支援には至っていない。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
おもてなし力の強化により、観光振興を図る事は、町の活性化に寄与するものであり、今後においても継続する事が必要不可欠であり、旅館やホテル、農家・漁家民宿等の充実を図ることも重要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止